

# 地元の仕事の魅力を

## 「じもと×しごとと発見フェア」と発見フェア 管内の高校生三百人に



各社ブースを回り仕事内容の説明を受ける高校生

【岩見沢】地元の仕事や企業について知ってもらおうと、「じもと×しごとと発見フェア」が1日、であえーるで開かれた。空知管内の7高校から1・2年生約360人が参加。地元を中心とした企業など22社の20ブースを回り、仕事内容に理解を深めた。

道の主催。担当者によると、道内の新規学卒者の3年以内離職率は5割近くに上り、全国の約4割と比べ高いという。進路を決める前に、地元の企業や仕事について知ってもらうことで若者の早期離職を防ごうと、振興局単位で本年度初めてフェアを企画した。

この日は、15分間隔で各社が仕事の内容を説明。「靴のいたがき(赤平市)では工房内の作業の一端を再現しながら、「硬くて厚くて丈夫なのがウリ」と紹介。不二建設(滝川市)では測量で使う機

械で実際に距離を計測するなどの体験も提供した。岩見沢農業高環境造園科の北村健介くん(2年)は「将来は庭師になりたいが、いたがきは同じ職人が丁寧に作業していて参考に

なった」、JAいわみさわなどのブースを回った同校農業科学科の五十嵐遼くん(同)は「海外も経験し、将来は地元に戻れたら」と話していた。

【末永直樹】